

特集  
NO.1

# 先人たちの軌跡

明治32年に開拓の鍬がおろされて以来、先人たちのたゆまぬ努力により、今日の和寒町が築き上げられてきました。  
平成21年には『わっさむ110年』を迎えることとなります。

110年という長い歴史のなかで、和寒町がどのような歩みを続け、今日の和寒町を築き上げてきたのか、110年という機会にもう一度振り返り、先人たちのご苦労に感謝するとともに、今後の和寒町の継承と発展を願うことのできる1年となるよう、110年の歴史についてご紹介していきます。

明治30年～明治44年 (形成期)

◆明治30年

秋田県の人、菊池伊七氏が鉄道工事の雑務や人夫相手に馬宿や飲店風のものをお営む。(和人移住のはじまり)

◆明治32年

剣淵屯田337戸入植。鉄道天塩線(現宗谷本線)が和寒まで開通し和寒駅を開設。



塩狩峠を上る蒸気機関車



明治36年剣淵屯田飲料水給水溝掘削工事

◆明治33年

ペオツペ原野の殖民区画地が設定される。この年の和寒市街戸数、民家8戸、鉄道官舎7戸。

◆明治35年

剣淵外4カ村戸長役場が分割され、剣淵戸長役場となる。相馬団休6戸が中和に入植。

◆明治36年

夫婦岩を発見。

◆明治37年

剣淵尋常高等小学校和寒分教場(和寒小学校の前身)が1学級33人で開校。

◆明治38年

和寒簡易教育所として独立。

◆明治39年

和寒郵便局が開設。2級町村制が施行され、剣淵村となる。

◆明治40年

中和の湧井藤七氏が湧き水を利用して水稲試作。和寒第2簡易教育所(中和小学校の前身)、和寒第3特別教授所(三和小学校の前身)が開設。

◆明治41年

幌加内道路が幌加内まで開通。

◆明治42年

ペオツペ特別教授場(西和小学校の前身)開設。旭川鉄道運輸事務所庶務主任の長野政雄氏が和寒塩狩間



明治39年頃の和寒駅前



分村請願書などの書類

で殉職。須貝広夫氏が南部牛12頭を飼育（酪農のはじまり）。剣淵村からの分村期成会を結成。

◆明治43年

市街に私設消防組が組織される。

◆明治44年

小畑藤市氏が、ふるさとから持ってきた種子で除虫菊を栽培。

大正元年～大正15年（発展期）

◆大正3年

剣淵村議会において分村を満場一致で議決。

◆大正4年

剣淵村から和寒村として独立分村、2級村制を施行。



分村祝賀会旗行列

◆大正5年

和寒第2尋常小学校所属朝日特別教授場開設（朝日小学校の前身）。日本製麻KK和寒工場創立。

◆大正6年

和寒尋常高等小学校第1期特別分教場開設（大成小学校の前身）。和寒尋常高等小学校東和特別分教場開設（東和小学校の前身）。帝国製麻和寒工場設置。

◆大正8年

和寒除虫菊製粉㈱、和寒木工㈱が設立。



分村後大正5年建築の役場

◆大正9年

西和、東和、大成で水稻試作始まる。

◆大正10年

このころに塩狩鉱泉を発見。松岡修三氏が農場用地を買収（松岡農場）。

◆大正11年

和寒土功組合設立（和寒土地改良区の前身）。

◆大正12年

塩狩温泉創業。村除虫菊販売組合設立。

◆大正13年

和寒成蹊会が和寒月報を創刊。全村を区域とする和寒信用販売組合設立。和寒酪農組合結成。

◆大正14年

西和貯水池、東和貯水池完成。

◆大正15年

国有種馬所和寒出張所開設。

【参考】和寒町史・和寒町百年史



大正14年頃の和寒駅前

広報わっさむでは、平成21年にわっさむ110年を迎えることから、今日までの和寒町の歩みを「先人たちの軌跡」としてご紹介していきます。また、当時の貴重な写真などがありましたら情報をお寄せください。次号以降では、昭和初期から中期頃の様子をご紹介します。